



支部だより No.138

日本山岳会京都・滋賀支部

2020年3月15日

平成から令和に変わって

松下征文

元号が令和となりましたが、京都・滋賀支部は変化があったでしょうか。

日本山岳会の会長は古野淳さんになりました。120周年記念事業が大きな目標となります。

令和元年年次晩餐会には天皇陛下が御臨席され、皇太子時代との違いを感じました。

谷垣様も元気に車椅子でお見えになり、京都の皆様によるしくお伝えくださいとお言葉をいただきました。

京都・滋賀支部では、会員や友の会の若手会員の活動が活発になってきました。若い世代から高齢者世代までが、それぞれの環境にあった計画で活動され、成果を上げているように感じています。

山歩会、平日例会山行、未知の山旅シリーズ、丹波の山々シリーズ、山のスケッチ、巨木探訪シリーズ、健幸登山教室、個人山行等々、丹波の山々シリーズは京都新聞丹波版に連載され好評を得ています。

健幸登山教室も他府県からの参加申し込み等があり、今後も参加者が増えていくと思われます。参加者から会員へと入会してくれることを願っています。

健幸登山教室とは登山初心者や、改めて基礎から学ぼうとする方を対象にしています。登山で健康を維持し、登山出来る事の幸せを感じていただくという思いで始めました。会員の皆様のご協力をよろしく願います。

会員、友の会の皆様に登山計画書を提出していただくようお願いしています。提出忘れが無いようにしてください。活動が多岐になってくると事故も比例してくるでしょう。いつも初心に帰って謙虚さを忘れないように行動しましょう。

巨木探訪シリーズ

兵庫県香美町小代・兎野高原 (自然保護部会 10月例会)

岡田茂久

10月30日、昨晚は気温が急激に下がり暖房が欲しくなるような日であったが、今朝は秋晴れで暖かい。今回は兵庫県の氷ノ山北麓の香美町小代までということで8:30出発である。

西国への行程は、R9号線の老の坂を越え、京都縦貫道の篠ICより千代川IC、篠山街道を走り、篠山ICから春日ICまで舞鶴自動車道、春日ICより現在は無料の北近畿自動車道を八鹿ICへ、R9号線で村岡、新温泉町方面に入るのが最短で安価なコースである。

それでも香美町小代神長物産館に着いたのは11:50であった。

小代の名物は但馬牛ステーキとすっぽんらしいが、我々も豪華な名物牛筋コロケランチである。小代は『日本で最も美しい村』連合に加盟し温泉とスキー場、棚田が有名である。

矢田川に沿って小代地区を縦断し、鳥取県若桜町春米に抜けるR482号線は、2019年5月に開通した細くて離合もままならない1車線の国道である。路面だけは新品の素晴らしい舗装で、酷道マニアには有名ならしい。

香美(カミ)町小代(オジロ)物産館から矢田川沿いにR482号を遡り、秋岡集落で矢田川に掛かる赤い欄干の橋を渡る。小代神社へは参道を高度100m程登る。ほとんど車は登ってはなく落ち葉が積りスリップに注意。標高438.4mの三角点丘と、天然記念物「燈明杉」のある丘に挟まれて神社が建っていた。「小代神社巨木群」案内看板によると、「燈明杉」を始めとする小代杉は9本で幹周り7m、6m、5m。他にトチ、ブナ、アオダモ、イタヤカエデ、シナノ木、イヌシデ等何れも3mを越える。

特にハリキリは兵庫県最大の3.6mという。巨大樹木を見慣れていると1本1本は平凡に見えるが、巨樹がこれだけ集まるとそれなりに壮観である。

R482に降り秋岡集落から矢田川に掛かる橋を右折す



小代神社の巨木群



兎和野高原の大カツラ

ると、昔よく耳にした「小代越」への道である。今の「ミカタスノーパーク」ゲレンデを横切り、鉢伏山を左に見て高丸山（1020.2m）の右肩を越えて「ハチ高原スキー場」へ滑り込んだという。この不便な小代へのアクセスはどうしたのか記憶にない。

更に矢田川に沿い R482 号線を降り、城山地区を越えた地点から橋を渡り、水間集落に登ると道は細くなり、一二峠（ほい峠）という変わった名の峠を越え萩

山集落に入る。はるか下に R9 号線を望む、こんな山中に大きな集落があるのが不思議でならない。板仕野集落から南の谷を詰めると、有名な「瀬川稲荷」である。なおも離合もままならない細い道を登る。

兎和野（うわの）高原に入ると途端に、センターラインのある広い道に飛び出したのには驚いた。

道路左に兎和野高原電子基準点（545.8m）を見るとすぐに、「兎和野高原大カツラ」の大きな標柱が建っている。

遊歩道入口の空き地に駐車し、落ち葉のじゅうたんの道を 300m 程行けば「兎和野高原大カツラ」である。樹齢約 500 年、8 本の主幹と無数の「ひこばえ」により幹周り 11m の巨樹となり、根元から豊かな清流が湧き出して小川となって溢れ出している。心洗われる風景であった。夏ならば若者の歓声が飛び交う兎和野高原だが、晩秋の高原はひと影も見えず、我々だけが自然を一人占めの贅沢であった。

この方面に来ると必ず立ち寄るのが和田山の「海鮮せんべい」。無料のコーヒーにうまいせんべいと格安の農産物を土産に帰京、西大路四条で 18 時。走行距離 430km 余。お疲れ様でした。

実施日：2019 年 10 月 30 日（水）

参加者：仕名野完治、山村孝夫、柏木俊二、方山宗子、岡田茂久

平日例会山行

国見岳 1126m ~ 御座峰 1070.0m

野村綾子

滋賀・岐阜県境尾根上に位置し、伊吹山の北に連なる国見岳と御座峰へ。今回は国見峠から歩き同ルートに戻る。計画では 10 月 24 日に予定されていたが、この頃ぐずついた天候が続き、当日も雨予報の為中止となった。尾根を歩く今回のコースは、やはり晴れた日に眺望を楽しみながら歩きたいと思う。翌週はすっきり晴れてようやくの秋晴れが期待できたので、一週遅れて実施となった。聞けば田中さんリーダーの山行が、このところ雨や他の理由で実施出来ていなかったそうで、今日の山行を楽しみにしているとのこと。私も久しぶりの例会参加で、尾根歩きを楽しみにしていた。行程最上流の私の車に参加者が乗車し、湖西道路を通り木ノ本から米原方面へ向かう。快晴予報なのに行く先が霞んでいるのは、放射冷却で発生した濃い霧のせいらしい。県道 40 号を北に進み、上板並の集落を過ぎ

て足俣川沿いに舗装林道を進む。途中180度道がカーブした後、国見林道を上っていく。この道は雪や台風で落石、土砂崩れが多いと聞いているので運転は慎重に。いくつものカーブを落石を避けながら通過したが、1か所だけは車を降りて全員で石を払った。長い林道だったが出会った車は1台だけだった。国見峠にはお地蔵さんが祭られており、その横に数台止められる広さの駐車場があった。

国見峠840mから登山開始(10:10)、先ずは国見岳1126mを目指す。すぐに尾根に乗るがここは林の中、南側は植林地で小規模の作業道が作られていた。広葉樹の葉は散り始めている。進行方向の右手に国見岳が三角形に見える。尾根歩きだと思っていたが、地図をよく見ると国見岳の北側ピークの手前で、900m～1000mまでを一気に登る。大小の岩が重なり、苔むして、さらに落ち葉が湿って滑る。朝露なのか前夜に雨が降ったのか、全く歩きにくい。岩をつかむのにストックが邪魔になる。約20分かけてここを通過するとスキの原に出た。ここはKDDI管理地と書いてある。基地局でもあったのか、地図にもそれらしき建物マークがあったが、今は人工物は何もない。そこから少し登って国見岳ピークまでは、黄色に色づく広葉樹の葉が足元の苔むした岩と合わせて美しい、歩きやすい林の道だ。ほどなく国見岳1126mのピークに出た(11:05)。ピークに立てば足元は深く切れ落ち、岐阜県揖斐川の市街地までも見渡せる。眺望は良いがピーク付近は狭いので、もう少し進んで昼食タイムとすることにした。国見岳から一旦下りまた林の中を歩く。苔むした岩の間にトリカブトの花が咲き残っていた。稜線に出て少しで大禿山1083mについた(12:17)。ここは広くて、景色を眺めながら昼食をとるのも気分が良い。良く晴れて最高の秋日の山を感じられた。振り返ると三角ピークの国見岳の上を、クマタカが翼を大きく広げて旋回していた。早めに食事タイムを終え、目的の御座峰を目指す。気分よく景色を眺めながら稜線歩きを楽しめるものと思いきや、カルスト地形特有の岩が突出したり、重なったりして歩きにくい。もう一つ歩を悩ませたのはシカやカモシカと思われる糞の多さである。臭いも強く、まるで牧場の様に臭う所もあった。シカやカモシカたちも稜線が歩き易いのか、稜線に餌があるのか、何よりも頭数が多いのか、糞を踏まずに歩こうとすれば凸凹岩に邪魔されるし、もう踏んでも仕方ないと決めて歩くしかない。進行方向斜め右に伊吹山ドライブウェイが見えているが、頂上稜線はガスの中にあった。「正面のあの山が御座峰」「もう少しで御座峰」「あと一登りで御座峰」そうわかっているが中々ピークに辿りつかない。そういえばここは緩やかな広い丘を登っているのだと地図を思い出した。そしてピーク

1070mに到着(13:22)。しかし眺望はない。背の高い笹に囲まれた狭いスペースで、そこがピークとは気づかないようなところだった。伊吹北尾根ルートは、地元山岳会が3年を掛けて登山道を整備したと、ステンレス製の立派な銘板に刻まれていた。帰りは来た道に戻る。大禿山から国見岳へ登り返し、国見岳の北側斜面の苔むした岩場の段差を慎重に慎重に下り、広葉樹林を歩く。国見峠まであと30分と書かれた看板に「教如上人御旧跡 鉦ヶ岩屋(なたがいわや)」というのが近くにあると案内されていたので、帰りに寄ってみようと言っていたが、秋の日暮れは早いので、明るいうちに林道に出ようと先を急いだ。国見峠着(16:05)、伊吹の稜線が見えていたような、いや、見えてはいなかったかな。

実施日：2019年10月31日(木)

参加者：田中昌二郎(L)、奥 克彦(SL)、古谷英二、野村綾子



御座峰目指して



御座峰山頂にて

五支部合同懇親山行

中川 寛

今年第19回の五支部合同懇親山行が、富山支部の担当で、新潟県との県境に近い大鷲山(817m)で行われた。登山口が県境の境川河口付近にあり、海拔0mから登る山として近年人気を集めているとのこと。

11月9日(土)

京都・滋賀支部からの参加者7名が2台に分乗し、会場の富山県入善町にある「バーデン明日」に向かった。山田車に大倉、中川、今中が、松下車に伊原、宇都宮が乗車し一路富山に向かった。山田車は、途中会場近くにある一等三角点の山「園家毛山17.3m、点名・岨之景」に立ち寄った。海岸近くにあり、砂山に一等三角点があった。麓のキャンプ場の駐車場に車を停め、さて、どこから登ろうかと登り口を探していると、発車しようと動き出した車から、その小屋の後ろから登るのですとの声。福井支部の皆さんが先に登っておられた。会場に向かい出発しようとしていると、今度は岐阜支部の皆さんが駐車場に入ってこられた。各支部に三角点マニアがおられるようだ。

16時からの講演会は、阿曾原温泉小屋の佐々木泉氏を講師に迎え、「黒部は生きている」との演題で行われた。黒部では、雪崩や土石流などの自然災害で大崩落が繰り返し起こっており、あちらこちらにその痕跡が見られる。昭和15年の大きな雪崩では、阿曾原温泉小屋近辺で10棟が崩壊し、28名の命が奪われている。黒部では、100年前から、電力会社が競って道を開いてきたが、自然災害にさらされる道の維持管理に今も大きな努力が払われている。工事の廃材や崩落により破壊された建造物の破片等、黒部のごみの撤去にも大変な労力が必要である。黒部川の流れを変えたことで

土砂が流入しなくなり、海岸線の浸食状況が変わってしまった。山と海の間をどうすればよいか大きな問題である。最後に、今年は11月に既に5名の死亡事故が起こっている。黒部の名前に魅かれて体力、技術がないのに山に入るのは危険だし、体力がある人の過信も事故の基である。落石や雪崩の起こりそうな場所を見極めて、身を守る行動をとって欲しいとのことであった。

講演会終了後、温泉を楽しんだあと、18:30から夕食懇親会が始まり懇親を深めた。

11月10日(日)

夜間に雨が降ったが、天気予報は曇りのち晴れ。海拔0mから登るAコースと、500m地点まで林道で行き登山を開始するBコースに分かれ、大鷲山に登った。松下、大倉、宇都宮、今中がAコースに、山田、伊原、中川がBコースに参加した。

(Aコース：宇都宮記)

8:35、境関所跡前の駐車場を出発。約1km、民家の間を境川河口に向け歩く。9:00、道標の立つ国道8号線沿いの登山口から山に入る。杉林の中、いきなりの急登。斜面をジグザグ登るのではなく、ほぼ真つすぐに登る。足元の土が水を含み、また落ち葉のせいでよく滑る。9:25、送電線の鉄塔に着き、しばし休憩。そこからはやや緩やかな登山道となり、10:08、境川の河口が見下ろせる地点で小休止。くもり空に時折、日が射し、色付きを始めた木々を楽しむことができる。さらに進むと北陸新幹線のトンネルの出口が見下ろせ、ちょうど列車が通り過ぎて行った。

470mのピークを過ぎ、50mほど急な坂を下る。また登りとなり、10:48、林道に着く。隣接する展望台で休憩、日本海を望む。はるかに能登半島がかすむ。11:00出発。また急な坂を登り、尾根に出れば、尾根に沿ってまっすぐに進む。下山してきたBコース参加の方々とすれ違う。もう少しと声を掛けていただき、元



大鷲山山頂にて A 班



大鷲山山頂にて B 班

気を出す。11:30、五葉松のはたで小休止。12:05、登頂。歩みを止め、くもり空の下、寒さを感じるが、北へ広く遠くまでの眺めに達成を喜ぶ。

昼食、全員で記念撮影ののち、12:40、往路を下山開始。13:30、展望台で休憩、14:30、送電線鉄塔の下で休憩を取る。急な坂は足元が上りよりもさらに不安で苦戦を強いられたが、14:50、登山口に到着。その後、駐車場まで歩き、15:06、着、解散となった。

(Bコース：中川記)

Bコースの登山口である展望台からは、山々の紅葉、眼下の富山湾、遠く能登半島の景色を楽しむことができた。9:20登山開始。いきなりの急登で、昨夜の雨でぬかるんだ粘土質の土は下りで苦労しそう。10:00尾根筋に出てしばしの休憩。北山では見られなくなった笹やブナがいい雰囲気を出している。遠くに潮騒を聞きながら尾根歩きを楽しみ展望が開けた所で一休み。大鷲山は、クマタカ・サシバ・ハチクマなどの猛禽類の渡りの絶好の観察ポイントとなっており、この山域にはイヌワシが生息しているとのことであるが、残念ながら目にすることはできなかった。10:50頂上着。三等三角点があった。期待したほど天候は回復せず、剣や白馬は見えなかった。それでも、能登半島や富山湾を眼下に見下ろし、ぜいたくなランチタイムを楽しんだ。記念写真のあと、11:35出発。滑りやすい急な下りを慎重におり、12:45に展望台に着いた。

「バーデン明日」の温泉で汗を流し、Aコース組と合流して16:20に出発。一路帰路に着いた。

実施日：2019年11月9日（土）～10日（日）

参加者：松下征文（L）、伊原哲士、宇都宮道人、
大倉寛治郎、中川 寛、山田和男
（友の会）今中三恵子、富山支部16名、
福井支部8名、岐阜支部8名、石川支部6名

「広島支部 京都・滋賀支部交流会」報告

伊原哲士

2016年11月「富士山遭難事故」、2017年8月「北海道幌尻岳遭難事故」と日本山岳会広島支部では悲しい遭難事故が続いた。この為、恒例の「広島支部 京都・滋賀支部交流会」は暫く途絶えていた。京都・滋賀支部も2006年9月「岐阜県左千方遭難事故」があり交流会を一時中止したこともある。今回の広島支部、京都・滋賀支部交流会は久しぶりの再開となる。

広島支部は、京都・滋賀支部の斎藤惇生顧問が日本山岳会会長の頃の1997年11月に設立された日本山岳会では24番目の支部だ。その意味では京都・滋賀支部とは縁が深い。日本山岳会全国支部懇談会が広島支部の担当で三倉岳で開催された。その後、「もう一度、三倉岳に登攀したい」との斎藤顧問の発案で、三倉岳で広島支部、京都・滋賀支部交流登山が始まった。

今回の「広島支部 京都・滋賀支部交流会」は広島支部の担当で、岡山県の蒜山高原で開催された。宿泊は国民休暇村蒜山高原だ。

11月16日京都・滋賀支部は、滋賀・長岡京組（宇都宮、中川、松下）と奈良・城陽組（伊原、杉本、竹村、幣内）の二台の車でそれぞれの地域から出発し、目的地の国民休暇村蒜山高原で合流することにした。

広島支部、京都・滋賀支部交流会に先立ち広島支部交流担当山内充人氏から、今回の登山計画など詳細な資料を送って来られた。「交流会スケジュール」、地図添付の「登山計画書」、山行についての「リスクアセスメント5段階評価表」だ。

「リスクアセスメント5段階評価表」については、京都・滋賀支部でも参考にしたい表だった。山域の蒜山高原について、「登山ルートのはずれ」という項目があり、「エスケープルート（行程変更）」の項目に続き、5段階評価は「4」とやや高リスク。「リスク軽減策」として「行程変更は不可で、途中待機を考える」として、5段階評価は「3」とリスクを一段階軽減させている。蒜山組の場合は麓から上蒜山の往復。エスケープルートはなく、リーダーの判断で途中待機として皆で下山するという事か。

広島支部は「とっとり花回廊」を見学して国民休暇村蒜山高原に着いたという。京都・滋賀支部も見学を誘われたが、出発時間の関係で蒜山高原に直行することとなった。

国民休暇村蒜山高原で広島支部、京都・滋賀支部と合流後は、懇親会が始まった。それぞれに懐かしい顔、

懐かしい話し。広島支部、京都・滋賀支部双方ともに若い会員の参加は少ない。時代の流れを感じる。京都・滋賀支部の中には「交流会」を中止する話もあったが、斎藤顧問とのご縁も深い広島支部だ。松下支部長は挨拶で「支部役員会でも提起しますが、斎藤先生のご健在な内は広島支部との交流会を続けたいと思う」との発言があった。

2020年の「広島支部 京都・滋賀支部交流会」は京都・滋賀支部の担当だ。若い会員も参加しやすく、且つ斎藤顧問も参加できる交流会にしたいと思う。

交流会はそれぞれに人との出会いがあり、語り合うことができる。元広島支部長の兼森志郎さんからは支部設立の頃の苦労話。「広島でも支部設立の機運は何度かあった。支部を創るということは、自前で資金を作り、人材を育成するという。今思えば大変なことだった。創る時も、その後も牽引していく人材が必要だ」と語る。こんな込み入った話ができるのも交流会ならではのことだ。

翌11月17日は交流登山だ。報告は宮石さん、宇都宮さんから頂いた。

(交流登山)

Aグループ(三平山～朝鍋鷲ヶ山)山行報告(広島支部 宮石 惇)

久しぶりの京都・滋賀支部との交流登山である。今回は上蒜山組みと私達三平山組みの登山となったが、休暇村蒜山到着後の各自のコンディションにより当初のメンバー編成とは多少変更となった。三平山組みは総勢9名で出発したが登山口で朝尾氏(博謙)の足が本調子でない様なので安全を考えて登山口で待機して頂くこととし8名で出発した。

早朝は晴天になるような状況であったが、時間の経過と共に霧と雲に覆われる状態となり、楽しみにしていた三平山8合目あたりからの大山の景観は、雲に遮られて残念ながら裾野しか見ることが出来なかった。中間地点あたりで兼森氏より「全行程は無理である様なので穴ヶ峠で下山したい」旨の申出があり、京都・滋賀支部の中川、伊原両氏から兼森氏に同行したいとの御意向で3人で下山、登山口で待機の朝尾氏に出迎えて頂く事とした。

最終的に5名で朝鍋鷲ヶ山に向うことになったが、頂上と思われる所に岡山国体(登山)を記念した「感動の碑」と刻まれた石碑が建てられていた。同時にここに3階建ての展望台があり(鉄骨製でかなり古い)登ってみると遠く烏ヶ山が「カラス」そのものの姿でたたずんでいる様であった。

Bグループ(上蒜山)山行記録報告(宇都宮 道人)

くもり時々晴れ。広島支部8名、京都・滋賀支部5名、計13名。リーダーは広島支部・近藤道明氏。上蒜山山頂(1202m)往復の行程である。

8時25分、駐車場を出発、約1km、登山口まで歩く。はじめは土の車道、次第に緩やかな傾斜となり、牧場の中の道を行く。8時45分、登山ルートを示す地図を掲げた登山口に到着。斎(いつき)広島支部長を先頭に登山開始。まずは植林の中の階段を約100mまっすぐに上る。急登で身体が温まる。階段を上がり切ったところが2合目(730m)で、休憩。斎支部長から植生や動物のことなど伺う。ここからは緩やかな登山道となるが、急登の箇所もあり、前の人につづいてひたすら登る。頭上が徐々に明るくなる。開けたところで振り返ると牧場の緑の美しい蒜山高原が眼下に広がっている。9時30分、10時15分と平坦な場所で休憩を取りながら高度を上げ、10時40分、8合目、槍ヶ峰(1,100m)に到着。前方に上蒜山の頂、右方には中蒜山、下蒜山の山容が望める。上蒜山から麓に続く斜面は、黄、赤、橙に色付いた木々に埋め尽くされている。時折、日が射し、木々を一層、輝かせる。

11時13分、標識の立つ頂上に到着。ザックをデポし、笹藪を漕いで三角点へ向かう。見事に整備されたこれまでの登山道と異なり、三角点への道筋はテープで目印の付けられた踏み跡のみで進むのに苦労する。11時35分、二等三角点(1,199.7m)に到着。標石の周囲に10人も立てば動きようのないくらいの広さ。特に展望もなし。すぐに中蒜山へのルートに当たる上蒜山頂上に戻り、昼食。風もなく、寒くもなく、ゆっくりと食事をしてお茶をいただき、おしゃべりをする。

記念撮影をして、12時30分、往路を下山開始。12時45分、8合目に着、頂上付近は雲に覆われているものの遠く大山を望むことができる。松下支部長から下山時の歩き方の講習もあり、急な箇所を慎重に下りる。13時13分、2合目にて休憩を取りながら14時11分、登山口に戻る。登山口脇の牧場には朝に見ることのできなかった牛が多く放されている。疲労感、達成感、また名残惜しさなど感じながら歩き14時25分、駐車場に到着。

実施日：2019年11月16日(土)～17日(日)

参加者：総計24名

(京都・滋賀支部)7名

伊原哲士、宇都宮道人、杉本順之、中川 寛、幣内規男、松下征文、竹村嘉一(会員外)

(広島支部)17名

朝尾洋子、朝尾博謙、伊藤秀輔、斎 陽、井川まり子、井川正光、円石利恵子、

兼森志郎、木村和子、坂原 忍、近藤道明、
田賀雅文、土居義信、堀亀 諭、宮石 惇、
山内充人、横井邦子



山歩会例会

胎金寺山～高山

岡田茂久

胎金寺山：修験道の山・2本の巨大な大杉とご対面

胎金寺山は南丹市園部町の園部川沿いの摩気神社を登山口とする。

11月26日、8:00に阪急洛西口駅で中川さんのスバルにピックアップして頂き、9:00京都縦貫道南丹PAで馬場車と合流。JR園部駅で大倉さんを乗せて、国道477号線（篠山街道）から摩気神社に向かう。小生、久しぶりの山歩会例会参加である。天候は午前中は曇りで午後は晴になる見込みだが気温は低い。9:30、摩気神社門前右手の駐車場に入る。

往古、摩気神社は延喜式内名神大社285座に列し、国家の大事の節には、天皇が奉幣使を派遣し祈願されるという格式ある神社である。承暦3年（1079）には白川天皇が行幸、「船井郡第一摩気神社」勅願を賜った。祭神は「大御饌津彦命」。御饌（ミケ）が転じて（マケ）となる。六月の神幸祭には深夜に角力、明朝には流鏝馬等が奉納されるという。

当時は神社の祭神は仏の権現であるとされた神仏習合の時代で、「神社はすなわち寺である」とされ、有名神社の多くには境内に寺院が置かれ、神社の諸事を寺が取り仕切った。その寺を別当寺という。明治維新に至るまでは、神社で最も権力があつたのが別当寺であり、神社宮司はその下に置かれていた。摩気神社には別当寺として「胎金寺」が存在していた。

摩気神社は園部藩主小出氏の祈願所として厚遇され

てきたが、宝暦11年（1761）、同境内にあった別当寺「胎金寺」の庫裏から出火、隣接する神社ともに全焼。その後小出氏により明和5年（1768）神社は再建されたものの、別当寺としての「胎金寺」は衰亡し、かろうじて山名としてのみ残ったようである。

南山城の鷲峰山にも「金胎寺」があり、金胎、胎金も同意で修験道に関連が深く、真言密教の本尊大日如来の智徳を表す金剛界と、理徳を表す胎藏界を意味する由緒ある名である。

山城の胎金寺には険しい行場があるが、胎金寺山の東に隣接する高山（372m）には中腹に行者岩があり、「高山の雨乞い」として有名であったと聞くものの、胎金寺山は頂上の行者堂のみで行場と言えるものもない。しかし、地元の竹井地区では、毎年頂上の行者堂で護摩法要が行われてきており、驚いたことに、護摩法要は地域の伝統として、女性の参列は固く規制されていたが、近年になって、やっと解禁されたということである。

摩気神社は深い軒先の山門、檜皮葺の小屋根に、更に苔むした茅葺の大屋根を載せた神さびた本殿、格式高い雰囲気漂わしている。本殿前の狛犬は江戸時代末期、孝明天皇から「日本一」と称えられた名工「丹波の佐吉」の作。丹波地方の神社、名刹に作品が多い。

「胎金寺山」へは、本殿の前を右方向に行き、落葉に彩られた谷奥へ続く林道を登る。途中右に「胎金寺山」への山道を分けるが倒木のため、そのまま林道を行くように誘導される。林道の終点から滑り易い丸木橋を渡り、まばらな杉の林間にある踏跡を進む。この辺り台風の名残で倒木が酷い。大岩に突き当たり正面を見あげると、注連縄が巻かれた巨大な杉が目飛び込む。「口の天狗杉」である。環境庁のデータでは樹高約40m、幹周囲約7.5m、樹齢300年以上とある。その偉容は神々しさを覚える。10:05～10:10

岩を回り込み右手の木段を登ると、旧来の胎金寺山登山路に合流する。巨大な倒木を横目に、やがて山道の右手は急な滑滝を交えた沢となり、足元の山道にはホウの大きな落ち葉が拡がっている。水流が少なくなり谷が広がると、直進する沢と右に曲る沢に分岐する。丸木橋を渡り平地に見える右沢の踏跡を詰める。沢が狭まり踏跡が沢心に近づくと荒れ気味の道となるが、やがて、前面にきれいな植林が拡がる分岐に着く。足元の倒木に「胎金寺山登山路」の標識が打ち付けてある。標識は無いが左の沢を5分ほど詰めると、「奥の天狗杉」だが帰途に寄ることにする。10:20

植林の中の登山道が急坂になると、右に回り込むようにして正面の尾根に乗る。植生は雑木林に変わり急坂の登りが続く。

最後の急坂を登れば樹林に覆われた標高423.5m（四



口の天狗杉

等三角点) 胎金寺山頂上である。トタン張りの行者堂があり、護摩檀を前に役行者様が座している。

かってから頂上は展望が良くないことから、今年の春、地元では「胎金寺山眺望保存会」を立ち上げ、三方が切り開かれて以前より格段に展望が良くなったが、風が強くなり冷え込む。記念撮影後に早々に下山する。10:55～11:05

帰途は往路を引き返すが、途中「奥の天狗杉」に寄り道する。国土地理院地図では頂上から東南・東北に2本の破線路が下っているが、いずれも廃道で下らない方が良さしい。

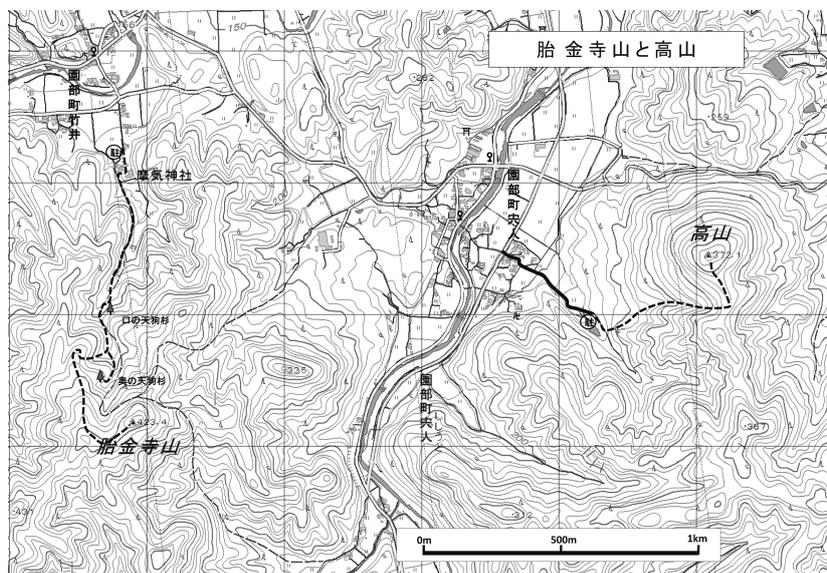
「奥の天狗杉」には、尾根道が植林の中を下る屈曲点から、滑り易い斜面を横断して近道をしたつもりが、分岐迄戻り沢筋の踏跡を辿った方が早かったかもしれ

ない。

「奥の天狗杉」は、「口の天狗杉」より樹高は劣るものの、根元から5m程の処で二股に別れ、主幹は太い枝を張り出して幹周りも太く立派である。残念ながら「口の天狗杉」と混同されているようで、公式なデータが見当たらないのは残念である。11:25～11:30

昼食場所は摩気神社裏手の切り開きで摂ったが、少し風は強いものの正面に胎金寺山を見上げ、全面に茅場が広がる最高の展望場所であった。12:05～12:40

摩気神社から次の目標の高山に向かうが、旧道十字路にある大きな自然石の灯籠が目を引く。傍の園部川に掛かる「まけ橋」、園部藩主が摩気神社に参拝の際は、この橋で下馬したので「馬橋」ともいい、年代物の青銅製擬宝珠を載せ、時代劇テレビ等の撮影にも良く使われる



胎金寺山と高山地図

レトロチックな橋である。白壁の旧家と黄色く色ついた銀杏の大木と合わせ、最高の被写体となっていた。

高山：秀麗な三角錐の雨乞いの山

京都府の山で高山というと、ブナの自然林で有名な丹後半島の最高峰を思い浮かべるが、この高山は園部町の胎金寺山の東にあり、標高は372.1m 三等三角点のある山で、点名は「宍戸」というらしいが、明治の三角点設置時に担当官が所在地の「宍戸一ししうど」を、「宍戸一ししど」と聞き違えたのではないだろうか。往時には時々こういうことが起きたらしい。

園部町中心部から南の半田川上流を見ると、秀麗な三角錐の山容が望まれ、登高欲をそそられる山である。かつては「高山の雨乞い」で有名で、日照り続きで稲に被害が及ぶようになると、村の人々が頂上に登り雨乞いをする場があるという。

内田嘉弘氏の「京都丹波の山(上)」では、高山へは宍戸から東の半田集落に越える半田(神坂)峠途中からのルートが紹介されて、山腹には行者が行をした行者岩もあるそうだ。宍戸で登山路を訊ねると、半田峠からの登山路は現在でははっきり確認できず駐車する場所もない。旧摩気小学校の生徒は宍戸から、高山の南の鞍部に登りそこから頂上に向かったと教えられた。

小学校の生徒がいつも登っている山ということで、胎金寺山登頂の余勢を駆り、ついでのもつりでののだが、小生、体調が思わしく無く僅ずかの登りがしんどい山であった。

胎金寺山を登頂し、摩気神社で昼食後に駐車場を出発。12:45。摩気神社のある竹井の集落で黄色く色ついた銀杏の大木と、白壁の民家の梢にたわわな柿の実に、晩秋の日本の原風景をみるような景色を満喫。小さな峠を越して胎金寺山の東麓の宍戸集落に移動。民家の脇から高山の南の尾根に食い込む林道を進み、灌漑池の手前に駐車する。13:05。

林道の獣害防止柵を開けて数十メートル、「高山登山道入口」の標識があり、左の植林の奥に踏跡が伸びている。しばらくで左に向かう分岐を通り越すが、地図を読むと其方が正解らしく引き返して分岐に入る。踏跡は沢筋に入ると落ち葉が積もる急坂となり息が切れる。30分程で尾根に乗り、最後のドームの急な登りには素朴な手すりとしてロープが作り付けてあった。13:50 頂上に到着。岩が点在する明るく気持ちの良い頂上で、東北には手前に大きく半国山が控え、遠くには愛宕山から地蔵山への稜線、手前にうづくまのように牛松山が控えている。西は兵庫県境の山波の向こうに大きく見えるのは三嶽だろうか、続く多紀アルプスの山々が懐かしい。昔、頂上の点在する岩の間で火を焚き雨乞いの儀式が行われたのであろうが、祠等も無く特に今

は偲ぶものも無い。

行者岩、祠等への踏跡を探しに、頂上から北方面への踏跡に入ると、樹間が小さな広場となっており、廃校になった「摩気小学校」の木製の大きな名札が傾いて懸っていた。かつては子供たちの歓声が聞こえたであろう頂上には秋風が吹き渡るのみ、思わず感傷的になってしまった。頂上からの踏跡は確認できず、30分ほどの頂上滞在で下山。14:20。急坂の下山は気を使う。登山口到着は14:45であった。

実施日：2019年11月26日(火)

参加者：中川 寛(L)、岡田茂久(SL)、大倉寛治郎、宇都宮道人、能田直子、幣内規男、(友の会)川寄紀久子、京極明美、馬場信枝

巨木探訪シリーズ

福井県鯖江市近辺

(自然保護部会 11月例会)

中川 寛

今月の巨木観察は、福井県の鯖江地方の三本を目指す。8:30分に四條大宮を出発し、途中二条駅で仕名野さんをピックアップ。鯖街道から敦賀経由で鯖江ICを目指した。

最初の巨木は鯖江市上戸口の三峯の大銀杏。大銀杏への林道入り口を探すべく道路脇の案内板を見ると、すぐ近くに刀那神社がある。神社には巨木のあること



三峯の大銀杏

が多いので立ち寄ってみると、結構立派な杉が立っていた。山村さんをはじめの木で、早速幹回りを計ってみると6.2mあった。山村基準（幹回り6m以上を巨木と認定）に合格の大杉であった。まだ木に勢いがあり、大きく育ちそうだ。そのあと案内板に従い三峯の大銀杏を目指す。舗装はされているがガードレールのない細い林道を慎重に登っていくと、整備された公園の中に大銀杏があった。元は幹回り6.6mの大銀杏であったが昭和56年の豪雪によって折れてしまい、このとき、折れた古木を地元民が穴を掘って埋めたところ、新芽が芽生え再生したとのこと。孫生え（ヒコバエ）が高さ10mほどに成長しており、奇跡的に再生した銀杏巨樹が三峯のシンボルとして保護されていた。

二本目は、鯖江市上野田町にある日吉神社の相生の大杉。本殿の真後ろに、2本の杉がくっついた形で高くそびえていた。1つの根元から2本の木に分かれているため「相生」の名が付き、夫婦が寄り添うような姿で立っていることから「めおと杉」とも呼ばれるとのこと。それぞれが幹回り4m以上の巨木であった。刀那神社の大杉、三峯の大銀杏と相生の大杉は、それぞれ鯖江市指定・登録文化財となっている。

三本目は鯖江の隣、越前市畑町八幡神社の大杉。参道石段の途中、社殿に向かって左手に立っている。根元が一体化した3本の木に、もう1本が根だけが繋がって4本の大杉が天を突いている。私は、巨木探訪に参加してからまだ日が浅いが、神社の境内に巨木があると何となく神秘的で、社殿に思わず手を合わせたくなる。

この日は、番外の刀那神社の大杉を含め4本の巨木を見ることができた。帰りは、武生ICから敦賀ICま



畑町八幡神社の大杉

で高速に乗り、鯖街道～大原経由で京都へ戻った。

実施日：2019年11月27日（水）

参加者：山村孝夫(L)、柏木俊二、方山宗子、仕名野完治、
中川 寛

山歩会例会

忘年山行 天王山

川寄紀久子

今回の忘年山行は、来年の大河ドラマの主人公、明智光秀と羽柴秀吉の天下分け目の戦いの場である天王山に登る。

当日 JR 山崎駅近くで「山崎十日市」が催されていたので少し早めに着いて見て回る。

集合時間11時に8名が集まり、まず近くにある「離宮八幡」に行くことになった。ここは製油発祥地で平安末期エゴマ油をしぼる道具を発明し、油座の本所となり大いに繁栄した所。駅前には「妙喜庵（待庵）」千利休作、日本最古の国宝茶室（二畳）があるが、要予約の為パス。

(11:15) 踏切を渡り「宝積寺」への坂道を上がって行く。山内には秀吉の「一夜の塔」と呼ばれる三重塔がある。その裏を通り、天王山ハイキングコースに入る(11:30)。少し急坂を登ると「青木葉展望台」に着く。今日は快晴15度の暖かい日で、皆上着を脱ぎ体温調節する。ここから「秀吉の道」には6カ所陶板画があり、①本能寺の変②秀吉の中国大返し③頼みの諸将来たらず④山崎合戦⑤光秀の最期⑥秀吉の覇権。絵と解説を読みながら山頂に至る。途中7合目あたりに「旗立松展望台」(12:00)がある。秀吉が士気を高めるため老松の樹上高く千成瓢箪の旗印を揚げた所。展望台から古戦場や大阪平野、三川合流域（木津川、宇治川、桂川）が見渡せる。5分程で幕末ゆかりの「十七烈士の墓」。少し行くと我国一古い板倉形式の神輿庫がある「酒解（さかとけ）神社」。

(12:30) 天王山(270.4m)到着。山頂は大きく広場のようになっており、周りの樹木で見晴らしはよくない。山崎の合戦直後に築いた城跡が残る。盛り上がった丘が天守台部分で山頂の標識が立っていた。作業員の方が測量されていてお話を聞くと、先の台風による倒木が多く、登山道が荒れて通行禁止になったが、頂上への道の復興に大山崎の人達も多く協力され4月に通れるようになったようです。コース脇に切断された丸木が多く積まれていたが、周りはまだ荒れていた。

(13:00) 昼食後、十方山に向かう。心地よい稜線歩き、分岐から水無瀬方面へ向かい、小倉山(305m)ピーク通過、十方山(304m 三等三角点)到着(14:05)。狭く展望なし。分岐まで戻り、柳谷分かれ三叉路から小倉神社方面へ竹林を降りて行く(15:00)。バスでJR長岡京駅へ。少し時間があるので、「勝竜寺城公園」に行く(16:10)。本能寺の変後、山崎の合戦に敗れた光秀は勝竜寺城に逃げ込み最後の夜を過ごし、北門から脱出したとされる。当時の石垣が一部残っている。

駅前「いこい」にて2名増え、美味しい魚料理で今年の締めくくり。

実施日：2019年12月10日(火)

参加者：中川 寛(L)、遠藤将一、能田 成、鮎川 滉、幣内規男、森 栄司、宇都宮道人、(友の会)川寄紀久子(SL)



天王山山頂にて

平日例会山行

忘年山行 十三石山～鴨川運動公園

福田文夫

ここ3年続けて忘年山行に参加させてもらっている。この山行きでは、京都市街近傍の山をワンデリングし、師走の早い夕暮れに合わせるように山麓の公園に集まり、持ち寄りの品で忘年の小宴を囲むのである。夜の寒さも厭わず、ヘッドランプを灯りに、今年の山の出来事などを話題に少人数で駄弁るのであるが、これもこの山行きの楽しみのひとつと思っている。

今回は氷室集落の北にある十三石山を登り、下山後の小宴の場は柘野ダム上流の鴨川運動公園であった。

Fさんが都合で小宴だけの参加となり、4名での鷹峯出発となった。夜の防寒と小宴の品で、背中のザツ



十三石山にて

クは何時になく膨らみ、70代の4人は「ゆっくりいこな」を申し合わせ、Uさんの本阿弥光悦にまつわる鷹峯「芸術村」の話聞きながら、まずは氷室集落を目指して歩き出した。

千束から長坂越えに入り、吹く風は冷たく落ち葉を踏みしめる山道には、暖冬の中にも初冬の風情があった。そして路傍に苔むしてひっそりと佇むお地藏さんは、この道の古さを感じさせた。

京見峠を越え、三角点峰の城山に立寄り長居をするなど、つつい道くさを食ってしまい、集落の入口にある氷室神社到着は、予定より遅れて正午近くになっていた。

昼食もほどほどに、人影のない村中を通り、杉林の中を満寿峠に至り、そして十三石山へと急いだ。山頂到着は2時。Oさんが運び上げたリングをいただきながら暫く休憩し、Fさんとの待合せの時間が気になって、早々に下山にかかった。

往路を集落手前の枝尾根まで戻り、展望地を案内する標識に従って左手の踏み分け道を辿り、尾根伝いに盗人谷に入る小峠に出た。途中、展望地では眼下に京都の市街が大きく広がり、東山の連山はもとより、遙か遠く南の方角には、生駒の左肩に南大阪の金剛・葛城の山塊までもが、薄いシルエットとなって見えていた。

山道は盗人谷に入り、先の台風で荒れた道が随所で丁寧に直されていた。その修復の苦勞に感謝しながら谷を下り、杉林のうっ閉した樹冠に守られて、降り始めた北山しぐれに濡れることもなく、今日の山行で山道が終わる山幸橋に下りた。待合せの公園はすぐ近く。近づけばFさんが手を振って合図をし、おでんが温まっているよと我々に告げた。

小宴は、しぐれを辛うじてしのげる庇の下で始まった。それぞれの膨らんだザツから出された品で、皆が分け合えるいろいろな食べ物が揃った。30分もすれば夕闇となり、アルコールは体を温め、皆を多弁にした。

この一年の思い出の山のこと、あるいはテント泊での東北放浪旅のことなど、それぞれが饒舌に語った。

小宴は、これまでに長く続いた。その内、久しく唄うことがなくなっていた山の歌を、おもむろにTさんが先導した。小声で口ずさむ我々の歌声を、ひとまわりほど若いFさんは初めて耳にすることのようで、スマホに録音し、是非とも覚えたいとのことであった。

これを機に小宴を閉じ、しぐれる夜の道を、皆で揃ってバス停まで歩いた。

実施日：2019年12月12日（木）

参加者：田中昌二郎（L）、上田典子（SL）、緒方由子、
福田文夫、（友の会）古谷英二

第三回武奈ヶ岳の日

武奈ヶ岳の日に行こう

尾形利香

お声掛けいただき、最初は何の事かわからなかったのですが、なるほど、山の標高のことだと気づきました。いつもひよっこ登山者の私、集まられたのは皆様健脚そうな方々。

イン谷～武奈ヶ岳往復のロングルートは初めてで、いったいどうなるやら、ちゃんと登り切れるのか。

ここのところ暖かいけれど、雪が残っていたら大変なのだろう。しかも相変わらずのおっちょこちょい、アイゼン忘れるし、少々不安だけど、とりあえず参加すると決めたのだから頑張っ、そんな気持ちで登山開始しました。

思っていた以上にあっという間にコヤマノ岳に到着。

今日は昼から天気崩れる予報、山頂に着くまでにお天気が崩れず、意外にもお天気は何とか持ちこたえて、琵琶湖を望むことが出来た。

何度登っていても、同じ景色とは思えない。毎回違う顔を見せてくれる。それは気象条件であるのか、その時の気分であるのか、今日もすっきり晴れているような、少しもやがかかっているような、初めてみる微妙で素敵な景色に出会えました。

下山では初めてのルートを通り、600年を超えると、芦生杉を見る。武奈ヶ岳で大木を見ることが出来るなんて知りませんでした。

皆様とご一緒させていただくと新たな発見があり、うれしい限りです。

下りではワイワイお話をお聞きしながら歩きました。

長い距離もあつという間。にぎやかにイン谷口に到

着しました。

ありがとうございました。ちゃんと歩いて良かったです。

実施日：2019年12月14日（土）

参加者：松下征史（L）、村上正（SL）、土井文雄（SL）、
友の会：中塚智子

（尾形利香、野崎貴子 健幸登山教室参加者）

2020年1月友の会入会

2020 初詣山行

松下征文

時折しぐれるあいにくの天気であったが、集合場所の近江神宮や、すぐ上の宇佐八幡宮は清々しい気に満ちていました。

今年は滋賀岳連「やまっこ」が担当してくれました。当初予定を変更して、大河ドラマ「麒麟が来た」にちなんでこの地となりました。

36名の参加者が宇佐八幡宮にお参りして、今年の山行安全を祈り、雨に濡れた急な山道を約25分登り山頂へ、山頂は宇佐山城の跡地で、北東の一ヶ所から大津市街の展望が開けています。

宇佐山城は戦国時代の浅井や織田の戦いにさらされていたが、明智光秀が城主となりここより比叡山焼き討ちを行い、その後坂本城を築きその城主となった。

滋賀県（近江）は戦国時代の中心地で、庶民は戦いにさらされて疲弊していただろう。

下山は濡れている道を葉っぱ滑落に注意して下山し、直会の会場である「びわこ大津館」（旧琵琶湖ホテル）へ約15分歩く。



宇佐八幡宮で記念写真

約二時間おいしい食事と懇親会で楽しく過ごして解散となりました。

お世話いただいたJAC京滋支部、やまっこの皆さんありがとうございました。

実施日：2020年1月5日（日）

参加者：松下征文(L) 宇都宮道人、能田 成、能田直子、中川 寛、田中昌二郎、大倉寛治郎、山内孝文、岡田茂久、遠藤将一、真名子栄一、八木 透、大久保優、山田和男、津田美也子、(友の会) 小川一代、辻田詩子、近藤憲司、川壽紀久子(家族知人) 竹添祐子、松下康江、桐山美代子、大橋京子、梅影義明、梅影順子、田辺俊子やまっこ会員3名とその知人7名

初詣山行、田辺朔朗異聞

松下征文

今年の初詣山行に津田美也子さんの紹介で、田辺俊子様が参加されました。その折に日本山岳会の会員証を預かりました。

会員証のお名前は田辺朔朗さんです。

1933：會員章367號と表記されて田辺朔朗と記名されています。87年前の会員証とは思えないほどのきれいな保存状態です。

田辺朔朗さんは日本山岳会創立9年後の1914年（53歳）に入会しています。入会前年にはスイスでアルプス登山用具を購入しています。

今までは、疏水を作った若き土木工学博士で、蹴上の疏水公園に銅像のある人として通り過ぎていましたが、会員証を見て新たな親しみを感じました。

京都や大津市民は疏水を作った人といえば、田辺朔朗さんが少し理解できるでしょう。他府県では誰ですか？疏水とは何ですか？しかし北海道では疏水とは関係なく、鉄道幹線敷設をやった人で多くの方が存じているようです。狩勝峠の命名者です。

ヒマラヤ関係の山岳書を読む方は田邊主計(かずえ)さんをご存じだと思います。多くのヒマラヤ関係の山岳書を翻訳出版しています。朔朗さんの次男です。この方は1933年に藤島敏夫さんと田辺多門(朔朗の三男で主計の弟)さんの紹介で日本山岳会に入会しています。

主計さんについては日本山岳会の緑爽会会報140号に南川金一さんが「お茶の水時代の人・田辺主計のこと」

を寄稿していますので参照してください。

今回初詣山行に参加された田邊俊子様は、朔朗さんの孫のお嫁さんです。

参考文献：「緑爽会会報140号」南川金一

「京の水・琵琶湖疏水に青春を賭けた田辺朔朗の生涯」村瀬仁一編著

「田辺朔朗博士喜寿年譜」田辺博士喜寿祝賀会

新年会報告

森 栄司

日本山岳会京都・滋賀支部の新年会が1月15日（水）6時30分から南禅寺「順正」で開催された。昨年は46人の出席だったが今年は49人に少し増えた。古参会員の出席が減少する中で、滋賀県の若い会員の出席が増えたのが嬉しい。

受付担当は、神永朱美会員と伊原哲士事務局長。今年は女性会員の出席は少なかったのが寂しい。昨年の新年会は、闘病の中で凜として行動しておられた田中節子会員にも受付のお手伝い頂いた。田中節子会員は昨年の新年会の半年後に逝去された。寂寥の思いが募る。

午後6時30分の定刻になったので恒例の新年会を開始した。司会は例年通り不肖私し、森栄司が担当した。

松下征文支部長の開催の挨拶の後、乾杯の発声は委員と若手を代表して笠谷茂委員にお願いした。

斎藤淳生顧問は仕事の都合で、欠席。南禅寺「順正」の会場まで、「皆さんで飲んで下さい」と珍しい冷酒を贈って来られた。斎藤先生のさりげない気配りが有難い。お酒は出席者で美味しく頂いた。

今回出席の新会員は、友の会から正会員に移行した大久保優会員。滋賀県の比良山系を中心に安全登山活動を展開する「レスキュー比良」の活動から日本山岳会京都・滋賀支部の会員になった。「レスキュー比良」は滋賀県山岳連盟所属。松下征文支部長が代表を務めている。

オークションは、スキー板、ストック、ザック等の登山装備、書籍。真名子栄一会員手作りの「鮎寿司」。神永朱美会員の「子年」のガラス工芸。多くの品が出品された。

オークションは日本山岳会の法被を着て駒井治雄会員の「啖呵売」で始まった。このオークションの怖しさは、「売れない」と値段と買う人を指定され「押し売り」するところか。瞬く間にオークションは終了した。

オークション収益は23890円でした。支部の「安全登山」啓蒙等の活動に大切に使用させていただきます。出席の皆様、有難うございました。

午後8時30分過ぎ宴もたけなわの頃、幣内規男副支部長の「どんな形でも良いから支部の行事に参加頂ければ有難い」という閉会の挨拶で終了した。

実施日：2020年1月15日（令和2年1月15日） 於 南禅寺「順正」

出席者：荒木龍太郎、伊原哲士、上西勝也、上田闊三郎、遠藤将一、大倉寛治郎、大槻雅弘、大久保優、大西康郎、岡田茂久、神永朱美、笠谷 茂、加倉大輔、角橋通弘、小谷紘平、駒井治雄、酒井敏明、仕名野完治、杉山イタル、杉山伸子、須藤邦裕、杉本順之、瀧本香織、田中昌二郎、中谷絹子、中西 諒、野村綾子、野田純一、能田 成、平井一正、平木清一郎、福田文夫、幣内規男、真名子栄一、松下征悟、松下征文、松崎大嶺、宮永幸男、村上 正、森 栄司、森山寛一、八木昭二、八木 透、矢野正明、薬師義美、山村孝夫、山内孝文、山田和男、山根 猛（49名）

巨木探訪シリーズ

福井県敦賀市近辺

（自然保護部会 1月例会）

仕名野 完治

昨夜来の雨で今日の決行を心配していたが、山村リーダーからの中止の連絡がなかったので、出かけることにした。

今日の山村車は、今までのVOXYと違って真白なホンダステップワゴン車で、新車と見まがうほど綺麗でビックリした。

いつも通いなれたR367号を北上、野田会員のデカイ山荘を横目で見ながら朽木の道の駅へ、このころから青空が見え出した。用を足して一路国境の峠を越し敦賀市内へと進む。敦賀市内に巨樹・巨木があるのかといふかったが、山村リーダーはいつもよく探して皆に紹介してくれる。

最初は「西福寺」という由緒あるデカイ寺の境内に入ると、スタジイの大木が2本左右に分れ立っていた。この辺りでは、飢饉に備えて村人のために植えられたとのことであった。次にイチヨウの大木の場所がなかなか見つからずウロウロ、町中の金山彦神社の境内に

12時に着く。この木はヒコバエを束ねたような巨木であった。

次に訪れたのは北陸自動車道の脇にある山間部の曾々木という集落で、13時頃到着。スギの大木が2本、寄り添って立っていた。1本は幹廻り6m余あると思われる、5人で見ていると近くの家のおバサンが何事かと顔を出してきた。このスギも日吉神社の境内にあり、入口の神社の標石は、巨大な自然石でかたどった亀が背負っていた。そろそろ腹が減ってきた13時半頃、8号線からうんと奥まった限界集落のような奥麻生には、村のお宮さんの前にモミの大木と、社の裏に巨大な苔むしたケヤキが淋しそうに立っていた。

今日の行程はここまでで、待ち遠しかった昼食は、帰途にあるマキノの追坂峠道の駅で14時35分にやっ



奥麻生お宮さんの大ケヤキ



金山彦神社の大イチヨウ

とありついた。四条大宮 16 時 45 分帰着。解散。

実施日：2020 年 1 月 29 日（水）

参加者：山村孝夫、岡田茂久、柏木俊二、方山宗子、
仕名野完治



西福寺のスタジオ

健幸登山教室に参加して

野崎貴子

大文字登山を初回に山登りを始め、京阪神の山々や、ときにアルプスの山に登り 8 年余り経過したものの、読図や山の歩き方に不安が残る状態でした。今回友人に誘われ、健幸登山教室に参加したので報告いたします。

①読図講習会、比良元気村宿泊棟

午前中は座学で登山の危険性や必要な装備について詳しく教えていただく。基本は知っているつもりだったが、“万一”に備える装備では自分のやり方では不十分だったことに気づかされた。道迷い、下山が遅れる、ビバークの必要等知ってはいても実感が無かったが、いつもツエルト、非常食、燃料の携行が大切だと分かった。また前もって概念図を作るということを新たに知った。

午後は楊梅滝まで実地の読図訓練、地形や対面に見えるピークなどを確認しながら進む。これは復讐しなければわからない。近所の比叡山の山道で後日おさらいする事にする。

実施日：2019 年 6 月 9 日（日）

参加者：松下征文（L）、村上 正（SL）、土井文雄（SL）、
真名子栄一、
友の会：宅間 仁、大窪公三、一般：4 名

②沢登り講習会、比良明王谷

初心者向けの沢登をしたことはあるが、こんなにどっぷり浸かる（それは流されたりハマったりしたせいだが）沢登は初めてだった。水は深く流れは豊富でコワイ、滝を巻く道は粘土のように滑って大変コワイ。ついて行くのに必死で講習の内容はあまり記憶にない。しかし言われたように岩の上に着地すると意外と滑らなかつたし、だんだん水の中を歩くのが面白くなってきた。

大人になってもこんなに楽しい遊びがあるとは驚いた。

実施日：2019 年 7 月 28 日（日）

参加者：松下征文（L）、土井文雄（SL）、竹下節子（SL）
友の会：土井ゆかり 一般：8 名

③武奈ヶ岳を安全に登る

なんと今回は先生三人に対して生徒一人（私）という贅沢な講習会だった。

京都在住なので東側から登ることはあまり無く、楽しみにしていた。イン谷口からの道の方が勾配が緩くて楽だと聞いたが、行程も長く歩きごたえがあった。

金糞峠で「比良募雪」が描かれた事は初めて知ったし、独特な香りのアズサの木（ミズメ）、本当に驚そっくりの可愛いサギソウ、鏡面の様に美しく木々を映す八雲ヶ原を教えていただいた。とても暑かったが、快晴で素晴らしい日だった。

実施日：2019 年 9 月 8 日（日）

参加者：松下征文（L）、竹下節子（SL）、村上 正、
一般 1 名

④比良釈迦岳

この日は名古屋からの受講者も参加され、生徒 8 であった。

大津ワングル道を歩いて釈迦岳に登った。今回は講師の方にご自身のザックの中身をすべて見せていただき大変参考になった。簡単なツエルトの利用の仕方、軽量のストーブ、“ひと晩”山で過ごせる用意。険しい山でなくても常に危険なことは起こる可能性があり、自分でその対策をしておくことが必要。怪我がなく、元気できちんと帰ってくるのが山登りに行く者の責任だと感じた。

実施日：2019 年 10 月 20 日（日）

参加者：松下征文（L）、村上 正（SL）
友の会：宅間 仁 一般 7 名

「富士山須山口登山歩道探勝集会」報告

伊原哲士

日本山岳会科学委員会から京都・滋賀支部に「富士山須山口登山歩道探勝集会を開催するから来ないか」と言う案内が来た。時期は日本山岳会年次晩餐会の前々日の12月5日だ。東京に年次晩餐会に行く途上で三島駅に下車すれば良い。「富士山須山口登山歩道探勝集会」に松下支部長と参加することにした。

富士山須山古道は静岡県裾野市にある須山浅間神社を起点とする登山道だ。富士山の登山道としての始まりは、大同3年(808年)平安時代初期頃と伝承されている。江戸時代初期には年間五千人を超える事も多い富士登山の人気道だった。宝永4年(1707年)、富士山の南面の宝永大噴火で須山登山道は消滅してしまった。

安永8年(1779年)に、名主勝田惣次郎らにより須山登山道の復興に着手され、翌安永9年(1780年)に浅間神社～十文字辻～幕岩～銀明水のルートで開通した。ところが、明治16年(1883年)に御殿場口登山道が開削され、明治22年(1889年)の東海道線の開通により、駅近の御殿場口登山道が賑わうようになり須山登山道は再び廃れた。明治45(1912年)には旧陸軍の演習場となり、結果として廃道となった。

地元裾野須山村の渡辺徳逸氏(1900年-2006年)をリーダーとする青年団により須山古道の復興が画策された。渡辺徳逸氏は小島烏水とも昵懇になり日本山岳会会員(会員番号1784)に推挙された。しかし昭和10年(1935年)に観光開発目的の国際富士美村計画などに反対した為に、須山登山道復興も廃案になる。

平成6年(1994年)、渡辺徳逸氏を中心とした裾野山岳会などが須山口登山道復興の気運が高まった。平成11年(1999年)に国土地理院により『須山口登山歩道』と命名され、現在の須山口登山道が復活した。その後、渡辺徳逸氏は日本山岳会静岡支部立ち上げに尽力した。

当支部の斎藤惇生顧問が日本山岳会会長だった頃に、渡辺徳逸氏と出会っている。1998年12月、日本山岳会と地元の市民登山クラブ裾野山岳会との80名近い初の合同登山として須山口登山道が登られた。

12月5日、宿のマイクロバスで富士山資料館、大野原演習場周遊、古刹須山浅間神社参拝した。宿泊は大野路。宿で地元会員による富士古道の歴史伝承の講演を拝聴した。

12月6日、小島烏水の孫の小島誠氏に見送られ、宿の大野路から富士山水ガ塚駐車場、御殿庭、宝永火口

は積雪の為断念、水が塚駐車場、大野路に戻った。

須山古道は素晴らしく、今回のルートで11月頃に支部例会を取り組みたい。

実施日：2019年12月5日(木)～6日(金)

参加者：(京都・滋賀支部)松下征文、伊原哲士、(本部科学委員会)石岡慎介、上 幸雄、(静岡支部)大島康弘、大和田秀穂、長野和義、(関西支部)岡田輝子、中谷絹子、(熊本支部)廣永峻一、(埼玉支部)東 洋子、中村直樹、(神奈川支部)小島 誠、(日本オオカミ協会)丸山直樹、丸山淑子(15名)

行 事 案 内

- ◇ 山行への参加申込は、例会名、会員番号、氏名、年齢、電話番号等、緊急連絡先および山岳保険の加入・種類など必要事項を記入の上、郵送または FAX で。
- ◇ 「★マイカー分乗」の山行は参加者の自家用車利用を予定しています。ご協力をお願いします。
- ◇ 思わぬところで遭難事故が発生します。車両保険と同様、また、ご家族のためにも山岳保険の加入は登山者の常識です。会員各位のご理解をお願いいたします。

日本山岳会京都・滋賀支部2020年度(令和2年度)第35回総会の案内

日 時：2020年4月4日(土)
場 所：鴨沂会館 新館ホール(203号と204号)
 京都市上京区荒神口寺町東入ル荒神町
 電話：075-231-1001
 (市バス3, 4, 17, 205系統「荒神口」下車西へ徒歩1分。京阪「丸太町」下車西へ徒歩約10分。)

- ① 日本山岳会京都・滋賀支部第35回総会(午後2時～3時30分)
 2019年度事業報告、決算報告。2020年度事業計画(案)、予算(案)。
 2020年度支部役員(案)。「今西錦司賞」選考経過。その他。
- ② 記念講演(午後3時45分～5時30分)
 講演 安間繁樹氏(2019年度秩父宮山岳賞受賞者)
 「人生を決めた西表島とボルネオ島の自然と人々」
- ③ 懇親会 台所「てんや」(午後6時～8時) 懇親会費4000円
 京都市中京区河原町通り蛸薬師一筋上ル東入ル 電話075-212-8585
 (阪急京都線「河原町駅」北へ徒歩5分)
 ※総会出欠ハガキの投函(63円切手添付)にご協力下さい。
 (問い合わせ等)
 日本山岳会京都・滋賀支部 事務局

平日例会山行

比良 釣瓶岳1098m 安曇川側から

目的の山域・山名：比良山系武奈ヶ岳の北に位置する釣瓶岳1098m
日 時：2020年4月16日(木)
集 合：参加者に連絡
行 程：R367 大津市坊村駐車場⇒栢生集落⇒・449⇒コメカイ道出合⇒・732 南の笹峠道出合⇒・923 イクワタ峠⇒釣瓶岳⇒往路下山⇒・

923⇒・449⇒栢生⇒坊村

地 形 図：1/25000 図「北小松」「比良山」

行程距離：約10km、標高差±約850m

山行の目安：体力3、技術3

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：4月8日(水)までに所定事項記入の上、FAX またはメールで担当者まで。

三等三角点 曲谷1 1006.2m 姉川ダム東の無名峰

目的の山域・山名：姉川上流甲津原集落の南、姉川ダムの北東に位置する1006.2m峰(三等三角点 点名 曲谷1)

日 時：2020年5月28日(木)

集 合：参加者に連絡

行 程：米原市甲津原集落南の沢(谷名不明も「曲谷」か)沿いに東進後に南進して三角点ピークの西の肩へ上がり山頂へ。藪漕ぎが予想される。

地 形 図：1/25000 図「虎御前山」「近江川合」「横山」「美束」

山行の目安：体力3、技術3

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：5月20日(水)までに所定事項記入の上、FAX またはメールで担当者まで。

八草峠古道～△780.4m(Ⅲ 戸谷)

目的の山域・山名：高時川の支流・杉野川上流域、滋賀県長浜市と岐阜県揖斐川町の境界上、八草峠旧峠とその北に位置する780.4mの三等三角点峰(点名 戸谷)

日 時：2020年6月18日(木)

集 合：参加者に連絡

行 程：湖西道路⇒木之本⇒R303⇒金居原集落⇒土倉谷分岐駐車⇒登谷⇒滋賀・岐阜県境稜線上の旧八草峠⇒△780.4m(Ⅲ 戸谷)⇒・937m方面探索⇒往路下山

地 形 図：1/25000 図「近江川合」「美濃川上」

山行の目安：体力3、技術3

担当者・リーダー：田中昌二郎

申 込：6月10日（木）までに所定事項記入の上、
FAX またはメールで担当者まで。

山歩会例会

弥仙山 693m

「丹波の槍ヶ岳」、「丹波富士」とも称される山へ

日 時：2020年4月28日（火）

集 合：参加者に連絡

行 程：京都縦貫道綾部安国寺IC⇒於与岐町大又⇒
登山口⇒於成神社⇒弥仙山⇒回遊コース分
岐⇒登山口⇒綾部安国寺IC

地 形 図：1/25000 図「丹波大町」「梅迫」

山行の目安：体力2、技術2

担 当 者：中川 寛

申 込：4月21日（火）までに所定事項記入の上、
FAX またはメールで担当者まで。

備 考：車の提供にご協力願います。

鷹峯三山

天ヶ峯～鷲ヶ峯～鷹ヶ峯三山を巡る

日 時：2020年5月26日（火）

集 合：地下鉄北大路駅南改札口 8時45分

行 程：北大路バスターミナル⇒原谷農協前⇒常信
寺⇒天ヶ峯⇒原谷口⇒鷲ヶ峯⇒鷹ヶ峯⇒大
文字山（左）⇒金閣寺前

地 形 図：1/25000 図「京都西北部」

山行の目安：体力2、技術2

担 当 者：中川 寛

申 込：5月19日（火）までに所定事項記入の上、
FAX またはメールで担当者まで。

笹が岳 739m

信楽高原最高峰の山、
信楽のてっぺんたぬきに会いに行こう

日 時：2020年6月30日（火）

集 合：西登山口路肩駐車地（南新田バス停より西
320m手前）、10時00分

※アクセスは自家用車にて新名神信楽IC降
車、詳細は追って連絡

行 程：路傍駐車地⇒東登山口⇒南新田東分岐⇒笹ヶ
岳頂上⇒南新田西分岐⇒西登山口⇒路傍駐
車地

地 形 図：1/25000 図「信楽」

山行の目安：体力2 技術2

担 当 者：中川 寛

申 込：6月23日（火）までに所定事項記入の上、
FAX またはメールで担当者まで。

備 考：車の提供にご協力願います。

登山教室・講習会

北小松人工壁講習会

日 時：2020年4月19日（日）

集 合：比良げんき村駐車場 9時00分

内 容：クライミングとロープワーク

担 当 者：松下征文

参 加 費：会員、友の会—1500円（参加人数により変
動あり）
会員外—2000円

申 込：4月10日（金）までに所定事項記入の上、メー
ルで担当者まで。
初心者、中級者

健幸登山教室—1

日 時：2020年4月26日（日）

集 合：比良イン谷口 8時35分

行 程：イン谷口⇒東稜一の沢⇒堂満東稜⇒堂満岳
⇒金糞峠⇒正面谷⇒イン谷口

地 形 図：1/25000 図「比良山」

山行の目安：体力3、技術2

内 容：読図と計画、歩行技術、遭難事例

担 当 者：松下征文、村上正

参 加 費：友の会—500円
受講生—2000円

申 込：5月20日（水）までに所定事項記入の上、メー
ルで担当者まで。

健幸登山教室—2

（京都の山々—皆子山と併催）

日 時：2020年6月7日（日）

集 合：葛川国道367号—平バス停付近 8時00分

行 程：平⇒皆子山東尾根⇒皆子山（往復）

地 形 図：1/25000 図「花脊」

山行の目安：体力2、技術2

内 容：読図と概念図、歩行技術

担 当 者：松下征文

参 加 費：受講生—2000円

申 込：5月30日（土）までに所定事項記入の上、メー
ルで担当者まで。

そ の 他：健幸登山教室はザック重量を10kgで登ります。

健幸登山教室—3

日時：7月5日（日）
 集合：坊村駐車場 8時00分
 行程：坊村→白滝谷→夫婦滝→一般ルート下山→坊村

地形図：1/25000 図「比良山」

山行の目安：体力2、技術3

担当者：松下征文

参加費：友の会—1000円
 受講生—2000円

参加条件：会員、友の会会員は4月19日の人口壁講習会に参加の事。

申込：6月20日（土）までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。

今西錦司レリーフの集い

北山直谷にある今西錦司レリーフを訪ね、清掃・補修作業を行います。

日時：2020年5月9日（土）
 集合：植物園北門前 9時00分
 行程：植物園北門⇒直谷⇒今西錦司レリーフ⇒直谷⇒植物園北門

地形図：1/25000 図「周山」、「大原」

担当者：中川 寛

申込：5月2日（土）までに所定事項記入の上、FAXまたはメールで担当者まで。

春のスケッチ

日時：2020年5月22日（金）
 集合：阪急電鉄嵐山駅 午前10時00分
 行程：嵐山、中之島公園周辺
 担当者：山田和男
 申込先：5月15日（金）までに所定事項を記入の上、FAXまたはメールで担当者まで。
 なお、前日19時前の天気予報で雨の場合は中止します。

第4回 テント泊登山の会

富士写ヶ岳△942.0m 山中温泉奥のシャクナゲの名山

目的の山域・山名：石川県加賀市にあって、大聖寺川の九谷ダム、我谷ダムの南に位置する富士写ヶ岳△942.0m（一等三角点 点名 富士写ヶ岳）

日時：2020年5月16日（土）～17日（日）
 集合：参加者に連絡
 行程：16日（土）湖西道路⇒北陸道⇒福井北JCT⇒R364⇒大内コース登山口駐車場テント設営
 17日（日）大内コース登山口⇒大内峠⇒送電線鉄塔⇒火燈山803m⇒小倉谷山△910.7m（三等三角点 点名 伏拝）⇒福井県境分岐⇒不惑新道⇒富士写ヶ岳⇒合流点⇒前山⇒送電線鉄塔⇒我谷コース登山口⇒我谷ダム吊橋⇒我谷ダム登山口駐車場⇒R364⇒山中温泉入浴⇒R364⇒北陸自動車道

地形図：1/25000 図「山中」「越前中川」

山行の目安：行程14km、実動約6.5時間程度
 体力3、技術3

注：周回ルートの為、車2台が望ましい。提供を求む。

担当者：田中昌二郎

申込：5月1日（金）までに所定事項記入の上、FAXまたはメールで担当者まで。

ダンダ坊整備と懇談会

例年行事のダンダ坊整備と午後のBBQで先輩後輩会員の懇談会を行います。楽しい行事ですので是非多くの会員の皆様に参加していただきたいですね。歩く距離は100mくらいです。

日時：2020年4月5日（日）
 集合：比良イン谷口 8時35分（8時30分着のバスあり）
 担当者：真名子栄一
 参加費：BBQ等の食費2000円（カンパ差し入れ歓迎）
 申込：4月1日までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。

シャクナゲ山行

日時：2020年4月29日（水・祭日）
 集合：比良イン谷口 8時35分
 行程：正面谷⇒シャクナゲ尾根⇒北比良峠⇒イン谷口
 北比良峠でコシアブラ等のてんぷらを楽しみます。

地形図：1/25000 図「比良山」

山行目安：体力2、技術2

担当者：真名子栄一

申 込：4月20日(月)までに所定事項記入の上、メールで担当者まで。

巨木探訪シリーズ (4月・5月・6月)

日 時：2020年4月29日(水)
5月27日(水)
6月24日(水)

担 当 者：山村 孝夫

※行先、集合場所等については、担当者に問い合わせること。

会 務 報 告 支部役員会

第406回支部役員会

2019年11月6日(水) 18:30～20:40
(於) 鴨沂会館 出席：18名 欠席：9名

「報 告」

10月に実施された秋のスケッチ山行、山水会講演会、健幸登山教室、未知の山旅・越後方面、山歩会例会・芦生の森、丹波の山々・八ヶ峯、巨木観察・兵庫県村岡町について報告。

支部長・事務局長報告

文部科学省登山研修所の講演会に参加した。会員各位も新しい知識の吸収に努めてほしい。

大久保優氏が友の会から正会員に移行。

「計 画」

11月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

会計報告・協議：領収書などの文書・記録類の保管期間を5年とすることを決定。

支部だより個人情報の取り扱いについて協議：参加者氏名を記載し、個人を特定できる写真を掲載する場合は、本人の承諾を取る。

第407回支部役員会

2019年12月4日(水) 18:30～19:30
(於) かがり火 出席：20名、欠席：7名

「報 告」

11月に実施された5支部懇親山行・大鷲山(富山支部担当)、平日例会山行・金糞岳、広島支部交流登山・蒜山高原、山歩会例会・胎金寺山、巨木観察について報告。

支部長・事務局長報告

冬山指導者講習会に土井委員が参加、晚餐会には支部から4名が参加予定。

「計 画」

12月に実施予定の山行計画について協議・承認。

「そ の 他」

2020年4月～2021年3月の間、京都新聞に「京都の山々」を毎月連載することになった。

第408回支部役員会

2020年1月8日(水) 18:30～20:30
(於) 鴨沂会館 出席：14名、欠席13名

「報 告」

12月に実施された山歩会例会・天王山、平日例会山行・十三石山、武奈ヶ岳、「富士山須山口登山歩道」探勝集会(静岡支部担当)、全国支部連絡会、年次晩餐会、1月に行われた初詣山行・宇佐山について報告。

支部長・事務局長報告

訃報、入退会の会員異動について報告。

「計 画」

1月に実施予定の新年会、山行計画について協議、承認。

「そ の 他」

京都新聞連載「京都の山々」について、山名、執筆者を協議、決定。

(中川 寛記)

＝ あ と が き ＝

昨春、京都北山のランドマークと思っていた電波塔が、いつの間にか無くなっていることに気がついた。

花背・杉ノ峠の近くに建ち、赤白の縞模様に塗り分けられたこの鉄塔は、目立つ峰がなく重なり合った山なみの中で、分かりやすい目印となっていた。鴨川沿いの市街からはもちろんのこと、遠く琵琶湖の船上からも見えた覚えがある。

自然の中に造られた大きな人工物。用を終えれば元の自然に返すことが、自然改変に対するルールだろう。

そう言えば奥越の荒島岳でも、山頂部にあった電波塔が、すっかり無くなっていたことを思い出した。(F.F)

＝ 次号 139 号 予告 ＝

2020年6月15日発行 原稿締切4月30日(木)

原稿送付先 編集担当 中川 寛

日本山岳会京都・滋賀支部会報 「支部だより138号」

発行所 〒525-0072 草津市笠山3-6-6
松下征文方
日本山岳会京都・滋賀支部
発行者 松 下 征 文
編集者 福 田 文 夫
印 刷 〒603-8148 京都市北区小山西花池町 1-8
(株) 土倉事務所
TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

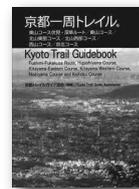
京都一周トレイル

Kyoto Trail Guidebook

京都トレイルガイド協会編

今人気の京都一周トレイルの、6つのコースを網羅した初めてのガイドブック。とにかく分かりやすい地図と英語対訳付きで、外国人観光客へのガイドにも最適です。

1,800円



大文字山

フィールドンサイエティ(法然院森のセンター)編

トレッキング手帖

ユニークな地質、植物や生きものたち、人の歩みを語る歴史遺産など、5つのコースから大文字山(如意ヶ岳)とその麓の街をめぐるながら楽しむ、歴史都市「京都」の再発見トレッキング。

1,300円



【今春刊行予定】

京都を学ぶ

文化資源を発掘する
京都学研究会編 各2,200円

【洛北編】

京都の眠れる「宝」(文化資源)に光を! 北山のヤマユが紡ぐ絹糸、葵が繋ぐ賀茂祭と将軍家など、洛北の自然・歴史・文化を探究する。

【丹波編】

山国・京都丹波を再発見! 平安仏、明智光秀の統治、グンゼと蚕糸業、保津川下りなどなど、山里に刻まれた歴史・文化を掘り起こす。

【南山城編】

京都と奈良を結ぶ回廊地域・南山城。木津川、緑茶、恭仁京、飛鳥仏教、名勝地笠置、流れ橋など、南山城の文化的景観を掘り下げる。

【洛西編】

名勝・嵐山で知られる洛西。桂川、渡月橋、竹林、蚕の社・木島神社、天龍寺をはじめとする庭園文化など、洛西の文化的景観を探索する。



【以下続刊】

ナカニシヤ出版

〒606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15 <http://www.nakanishiya.co.jp/>
電話 075-723-0111 FAX 075-723-0095 表示は本体価格です。

世界の山旅手がけて51年!【山旅専門の旅行会社】アルパインツアーからのご案内

大阪発着で行く!

カタログは、下記QRコードからご請求ください!

世界の山旅 専用カタログが完成いたしました!



このたび大阪(関空・伊丹)発着でご案内する世界の山旅を集めたカタログが完成しました!ツアーリーダーが全行程同行する企画や新企画など多彩なラインナップでご紹介しております。お気軽にご請求ください。

【紹介エリア】



韓国最高峰・漢拿山登山 マレーシア最高峰Mt.キナバル登山 ノルウェー・フィヨルド展望ハイキング
マダガスカル ツインギー・トレッキング カナディアン・ロッキー・ハイキング スイス山小屋トレッキング
チロル・ドロミテ・ハイキング モンゴル・ハイキング コーカサス山脈花の谷ハイキング
ツール・ド・モンブランゆったりトレッキング 秋のユーコン・ハイキングとカナヌー体験 キリマンジャロ登山
トルコ・カッパドキア・ハイキング アメリカ・グランドサークル・ハイキング など



▲グランドサークル(アメリカ)

▲ツインギー(マダガスカル)

▲マッターホルン(スイス)

▲キリマンジャロ(タンザニア)



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 ©ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪 0120-938-290
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3 (TCF肥後橋ビル2階)

